



Title	ペットロスに迫る量的研究・質的研究
Author(s)	木村, 祐哉
Description	シンポジウム2「ペットロス」探求 Symposium2 Understanding for the "Pet Loss" 抄録の出典: 『ヒトと動物の関係学会誌』 Vol.25、2010年3月、p.22
Relation	ヒトと動物の関係学会第16回学術大会 (the 16th Annual Meeting Society for the Study of Human Animal relations). 平成22年3月6日～7日. 東京大学農学部弥生講堂・一条ホール、東京都文京区.
Issue Date	2010-03-07
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/42802
Type	conference presentation
File Information	kimura_16thHARsMeeting.pdf, プレゼンテーション資料



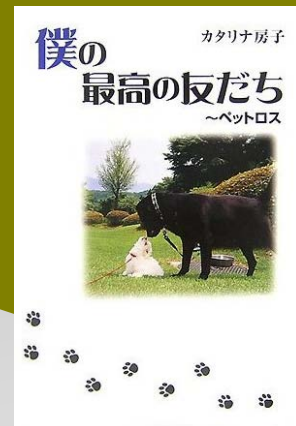
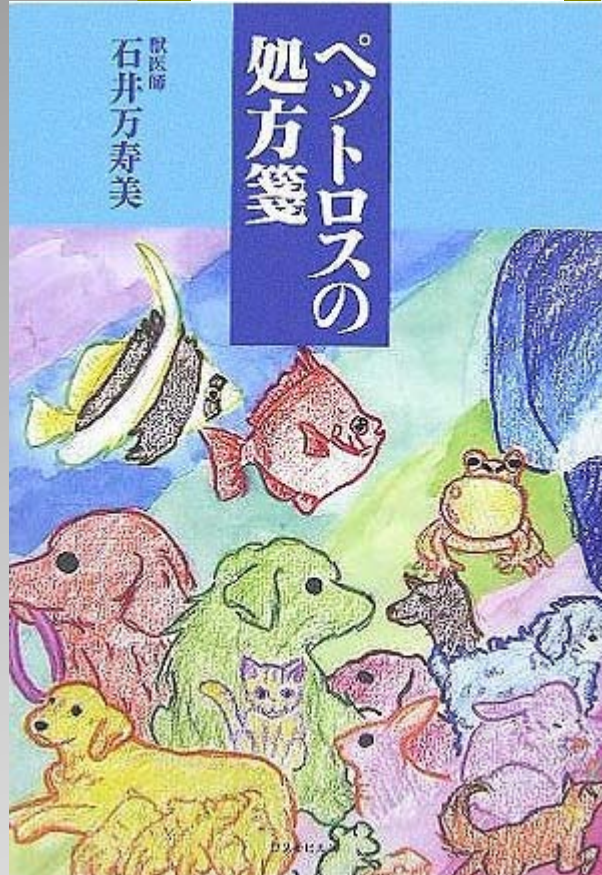


ペットロス に迫る 量的研究 質的研究

北海道大学 医学研究科
医療システム学分野
木村 祐哉

2010. 3. 7





多くの書籍

新

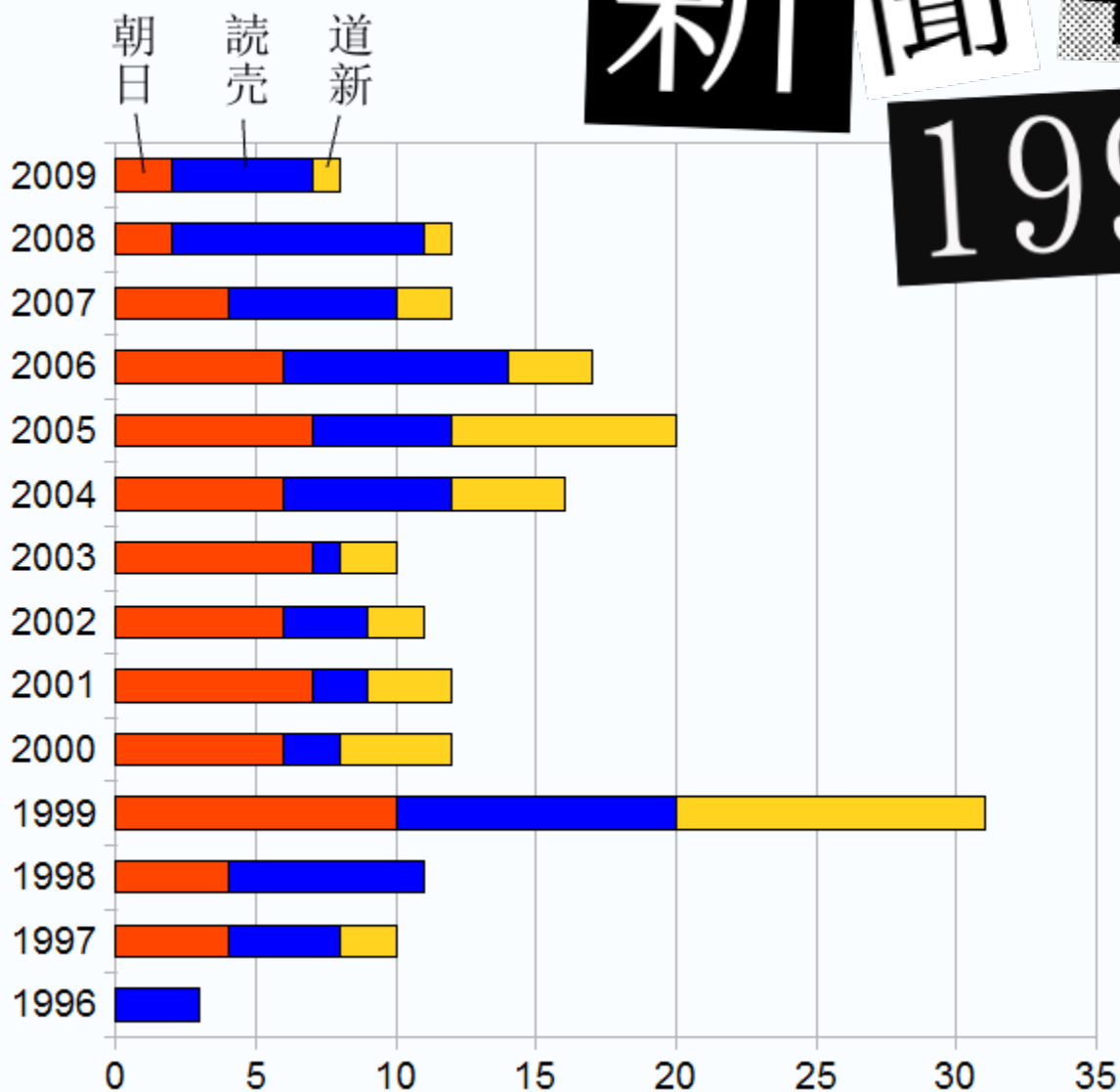
聞

報道

は

1996年

から



——しかし、研究は少ない！



CiNii 検索 - “ペットロス” “ペット・ロス” - Mozilla Firefox

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 履歴(S) ブックマーク(B) ツール(T) ヘルプ(H)

http://cinii.ac.jp/search?q=“ペットロス”+“ペット・ロス”&range=0&count=20&sortorder=1

SNS Carender EndNote Reader log 編集

CiNii 国立情報学研究所 論文情報ナビゲータ[サイニイ]

北海道大学様 新規登録

“ペットロス” “ペット・ロス”

検索

☒ すべて ☐ CiNiiに本文あり ☐ CiNiiに本文あり、または連携サービスへのリンクあり

表示

1 2 3 次へ

実行 ☐ 全件選択 20件ずつ表示 出版年:新しい順に表示 表

「中紀夫」総理も落ち込む「鳩山幸」夫人のペットロス (ワイド「鳩山政権」不協

雑誌新潮 54(41), (2716) 28, 2009/10/29

Full-Text@Hokkaido Univ. 北大OPAC

☐  いつか訪れる悲しみ ペットロスを怖がらないで (ペット最新事情 我が子より、夫より愛おしい「君」のいる幸せ)

山田 真理

誰を調べれば良いの？

知り合いじゃダメ？

とりあえず学生でー

ヒトの心なんて、
どう調べればいいの？

なんとなく
アンケートしてみたけど？

心を比べるなんて！

統計ってわからない

What's problem?



本講演のゴール
ペットロスを研究するための
デザインを1つ考える

本論

質

量

質的研究

(定性的研究)

- 仮説生成
 - 帰納的
 - 変数の発見

量的研究

(定量的研究)

- 仮説検証
 - 演繹的
 - 変数の査定

研究の流れ



対象



方法



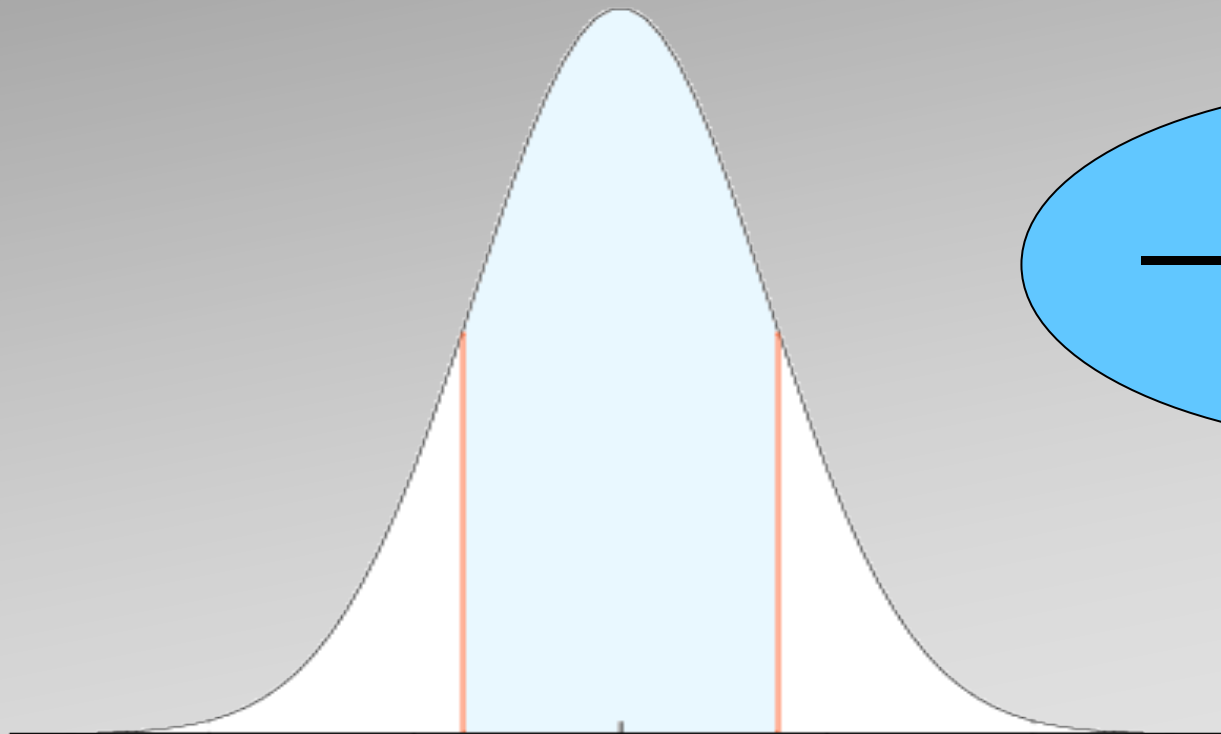
解析

各論



全てを数値化
—量的研究

目的：代表値（平均値、中央値など）による変数の客観的比較



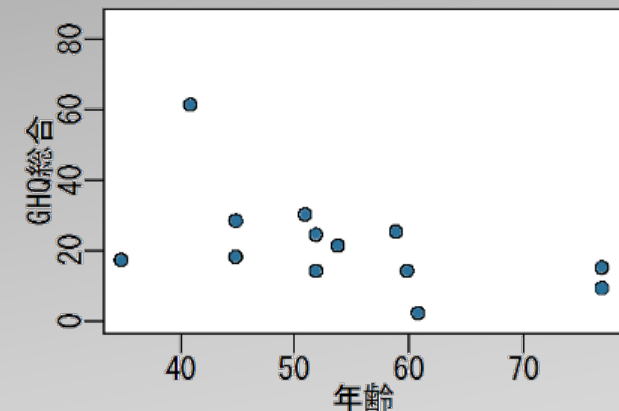
一般論の創出

例えば

対象：保健所の火葬場利用者

方法：GHQ28

解析：相関分析



ペット喪失直後に生じる悲嘆反応の程度と頻度

～疫学的研究を目指した予備調査より～

(木村ら，平成20年度日本獣医師会学会年次大会，2009)

誰を選ぶか

よくある例

- 講義に出ている大学生で調べました
- mixiのコミュニティ内でアンケートしました
- 動物病院で死別経験者を紹介してもらいました

決して間違いではない
ただ、その限界を理解すべき

→ **バイアス**

対象選択も トレードオフ



心をどう数値化するか



私のことどれぐらい好き？



Visual Analogue Scale,
VAS

量的研究/方法

Pet Attitude Scale	1-7
ペットがおいしそうにフードを食べているのを見るのが本当に好きである	
どんな友人よりもペットのほうが大事である	
家でペットを飼いたい	
ペットを飼うのは金の無駄である	
ペットは生活に幸福感をプラスしてくれる	
ペットは外で飼うべきである	
毎日、ペットと遊ぶ時間をとっている	
時々、ペットとコミュニケーションをとっていて、ペットが何を言いたいかわかることがある	
世の中のヒトがペットの世話に明け暮れている時間を他人の介護に充てるようになれば、世界はもっとよくなるはずである	
動物に手からフードをやるのが好きである	
ペットに愛情をもっている	
動物は野生か動物園にいるもので、家庭で飼うものではない	
家の中でペットを飼うと、家具をめちゃめちゃにされると思う	
家で飼うペットが好きである	
ペットはかわいいと思うが、わざわざ飼うほどのものでもない	
ペットによく話しかける	
動物は嫌いである	
家庭のペットは人間の家族と同様に敬意をもって扱うべきである	



尺度については

「人と動物の関係」の学び方

編 著 : 桜井, 長田
税込価格 : ¥4,095
発 売 : インターズー
発行年月 : 2003. 2
I S B N : 4-89995-199-X

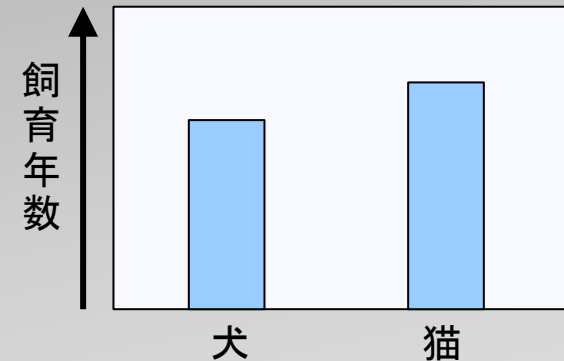
どう比べるか

代表的な単変量解析

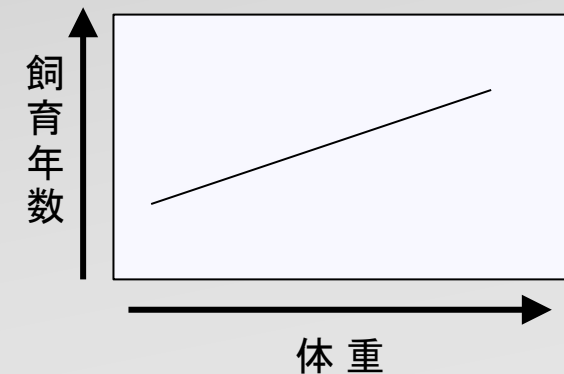
離散変数 × 離散変数 → χ^2 検定

	男	女
犬		
猫		

離散変数 × 連続変数 → t検定



連続変数 × 連続変数 → 相関/回帰分析



多変量解析

- 重回帰分析
- 判別分析
- 主成分分析
- 因子分析
- ロジスティック回帰分析

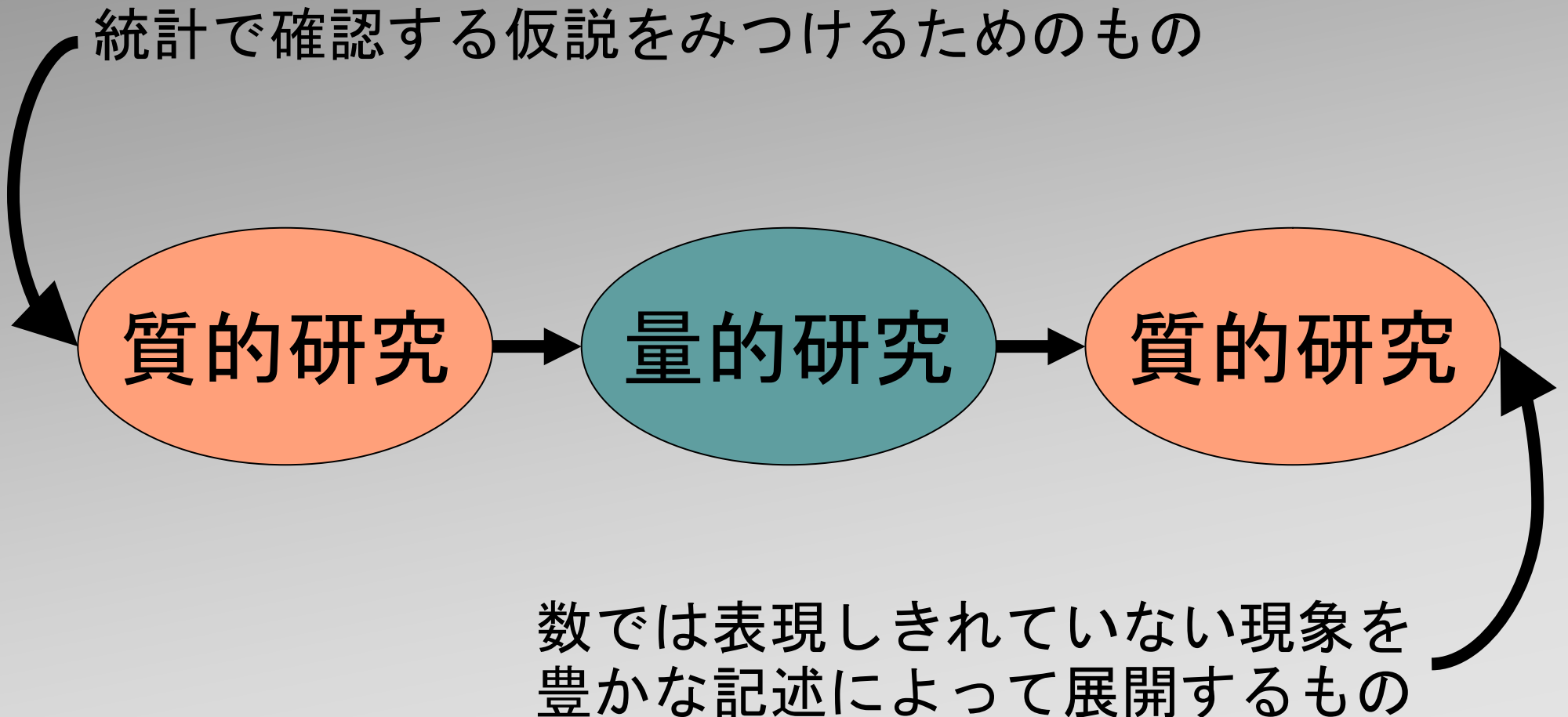
など

豊かな表現で描き出す
一質的研究

目的：隠れた法則を探し出す



※質的研究には2つの意味

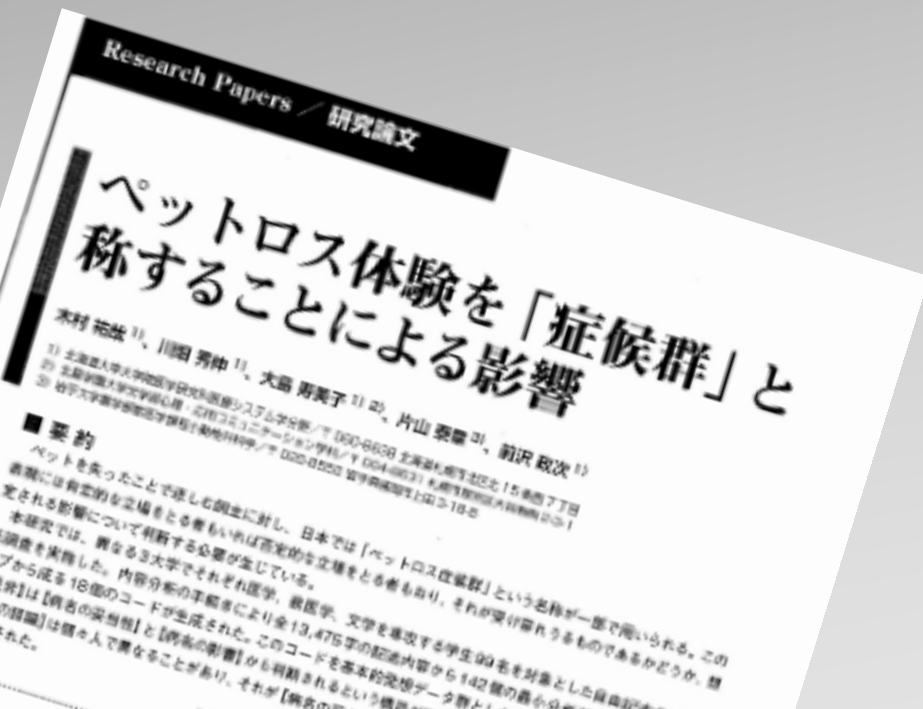


例えば

対象：医学部（6年） 獣医学部（5年） 文学部（2年）

方法：質問紙調査（自由記述式）

解析：内容分析（コーディング→KJ法）



コーディング

テキスト
別に、1つの独立した疾患として提案する必要はないと思う。
社会に広まるきっかけになり、とりあえずは良いのではないか。



コード
独立した疾患である必要はない
病名が社会認識の向上につながる

異常者と思われ
れるかも

病名があれば他人
に自分の状態を説
明しやすい

自分と同じ悩みを
持つ人がいると感
じられ、安心する

奇異の目で
見られそう

病名はラベルに過
ぎないので、必要
なら使えば良い

ペットの喪失だけを
区別する理由が不明

病名が社会認識の
向上につながる

病名をつけることで
安心できるなら良い

KJ法

異常者と思われ
れるかも

奇異の目で
見られそう

病名が社会認識の
向上につながる

病名があれば他人
に自分の状態を説
明しやすい

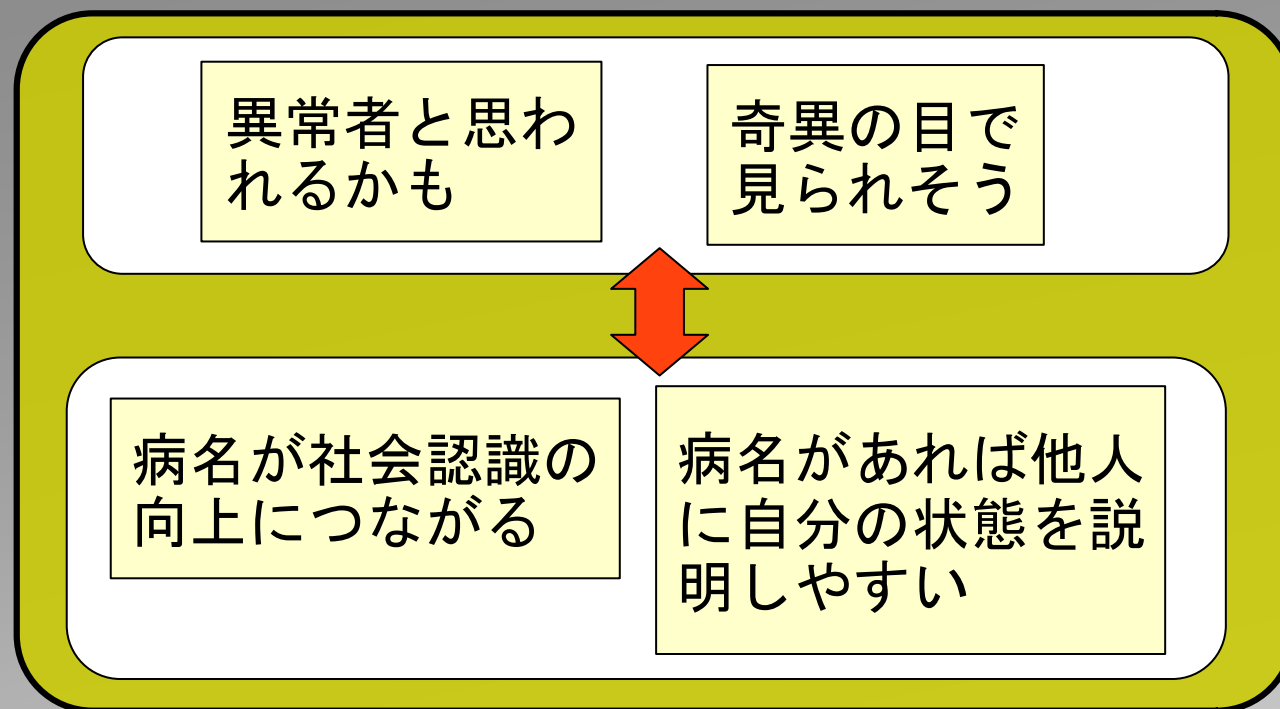
病名はラベルに過
ぎないので、必要
なら使えば良い

病名をつけることで
安心できるなら良い

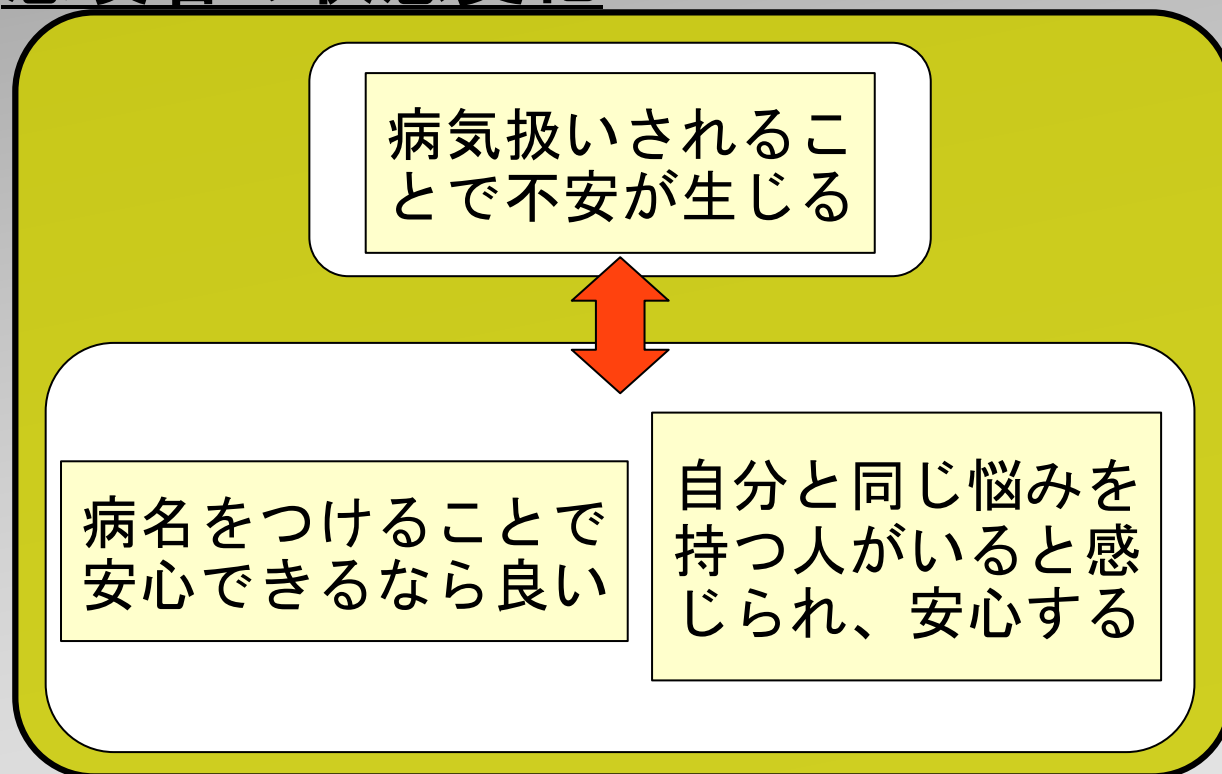
自分と同じ悩みを
持つ人がいると感
じられ、安心する

ペットの喪失だけを
区別する理由が不明

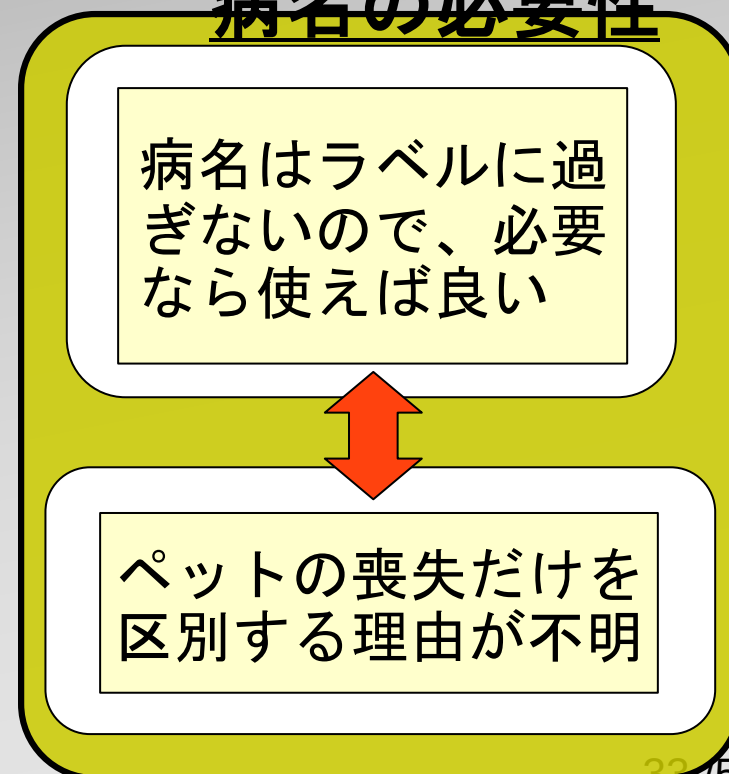
悲嘆者への認識

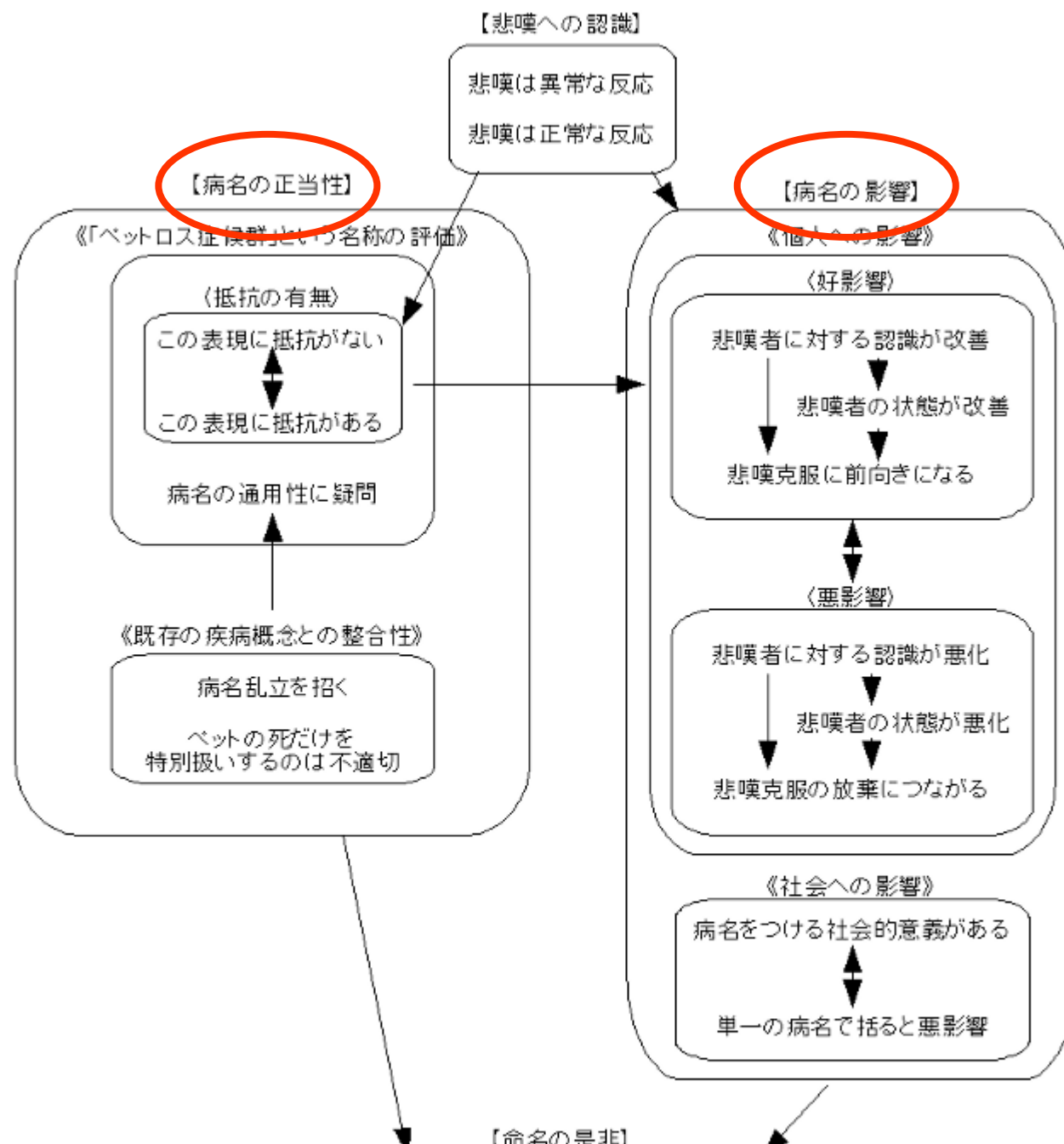


悲嘆者の状態変化



病名の必要性





誰に訊くか

広く集める

- 募集と解析とを行き来する（継続比較）
- 目的に合わせて対象を広げていく（合目的的サンプリング）
- 新しいアイディアが出なくなるまで続ける（理論飽和）

どう訊くか

よくある例

- インタビュー（個別，フォーカスグループ）
- アンケート（自由記述，日記）
- 観察記録（参与，非参与）

理論のみつけ方

Owner response to companion animal death: development of a theory and practical implications

Cindy L. Adams, Brenda N. Bonnett, Alan H. Meek

Abstract — This study used an inductive research method known as grounded theory to develop a theory to describe owner response to the death of a pet. Participants were identified from 8 veterinary clinics in Wellington County, Ontario. Eighty percent (8 of 10) of the practices approached agreed to participate and there was a 77% (44 of 57) participation rate by clients. Nondirective interviews were conducted with participants approximately 10 days following the death of their pet, and at 3, 6, and 12 mo thereafter. The theory developed suggests that people's reactions are best described as a social and psychological search for meaning. Factors that contributed to the search for meaning included societal values and norms, the cultural milieu of pet death, and the cultural milieu of veterinary medicine. Other factors, such as the participant's personal beliefs, life stage, critical life events, and animal attributes, either alleviated or aggravated the experience. The outcome for participants grieving the death of a pet was a self-governing approach to coping with the death. Practical implications and suggestions for veterinarians are presented.

Résumé — Réaction du maître à la mort d'un animal de compagnie: Développement d'une théorie et implications pratiques. Cette étude a utilisé une méthode de recherche inductive reconnue comme étant une théorie éprouvée pour développer une hypothèse décrivant la réaction du maître à la mort de son animal. Les participants ont été sélectionnés à partir de 8 cliniques vétérinaires du comté Wellington en Ontario. Quatre-vingt pourcent (8 sur 10) des établissements contactés ont accepté de participer et le taux de participation des clients a été de 77 % (44 sur 57). Des entrevues non-directives ont été menées avec les participants approximativement 10 jours après la mort de son animal et par la suite après 3, 6, et 12 mois. La théorie développée suggère que c'est une recherche d'un sens social et psychologique qui décrit le mieux la réaction des gens. Les facteurs qui contribuent à la recherche d'une signification comprennent les valeurs et les standards sociaux, le milieu culturel de l'animal défunt et le milieu culturel vétérinaire. D'autres facteurs, tels les croyances personnelles du participant, la période de la vie, les événements critiques de la vie et les qualités de l'animal apaisaient ou exacerbaient l'épreuve. Le résultat pour les participants affligés par la mort d'un animal cher consistait à développer une approche personnelle afin d'apprivoiser la mort. Des implications pratiques et des suggestions sont présentées aux vétérinaires.

(Traduit par docteur André Blouin)

Can Vet J 1999; 40: 33-39

Introduction

I ncreasing awareness of the significant role that animals play in people's lives has led researchers to look at people's reactions to the death of a pet (1,2). Researchers have found that the death of a companion animal can cause severe psychological, emotional, or physiological stress (3). In extreme cases, the mourning has resulted in psychiatric treatment in hospital (4).

In order to understand the grief that some people experience after their pet dies, researchers began to compare the consequences associated with pet death with responses to human death. In an attempt to classify and describe owner reactions to pet death, researchers (5,6) have relied mainly on the stage-theory of the grief associated with the death of a person developed by Kubler-Ross (7). However, Kubler-Ross' (7) work was intended to explain human reactions to death and dying

rather than to be used as a broad application to other losses, such as pet death.

In 1987, Kidd and Kidd (8) recognized that while the field of human animal interactions had generated a large body of literature, most of it was based on human to human rather than human to animal interactions. They concluded that grief for a pet should be explored within the context of pet culture and not simply compared with grief for a human life or other experiences of loss that people encounter. In most cases, research into grief that occurs following pet death has been based on deductive research methodologies. For example, hypotheses have been formulated based on preexisting knowledge or theories about the subject matter and then tested (9,10). This has limited our understanding. Therefore, there is little material available for veterinarians to guide them in predicting or detecting clients who are at risk following the death of their pet, or to determine the services needed to address the range of reactions that people have to pet death.

Certain qualitative research methodologies provide a means of conducting inductive research, whereby the phenomenon of interest is approached without previously formulated hypotheses. Given the lack of relevant

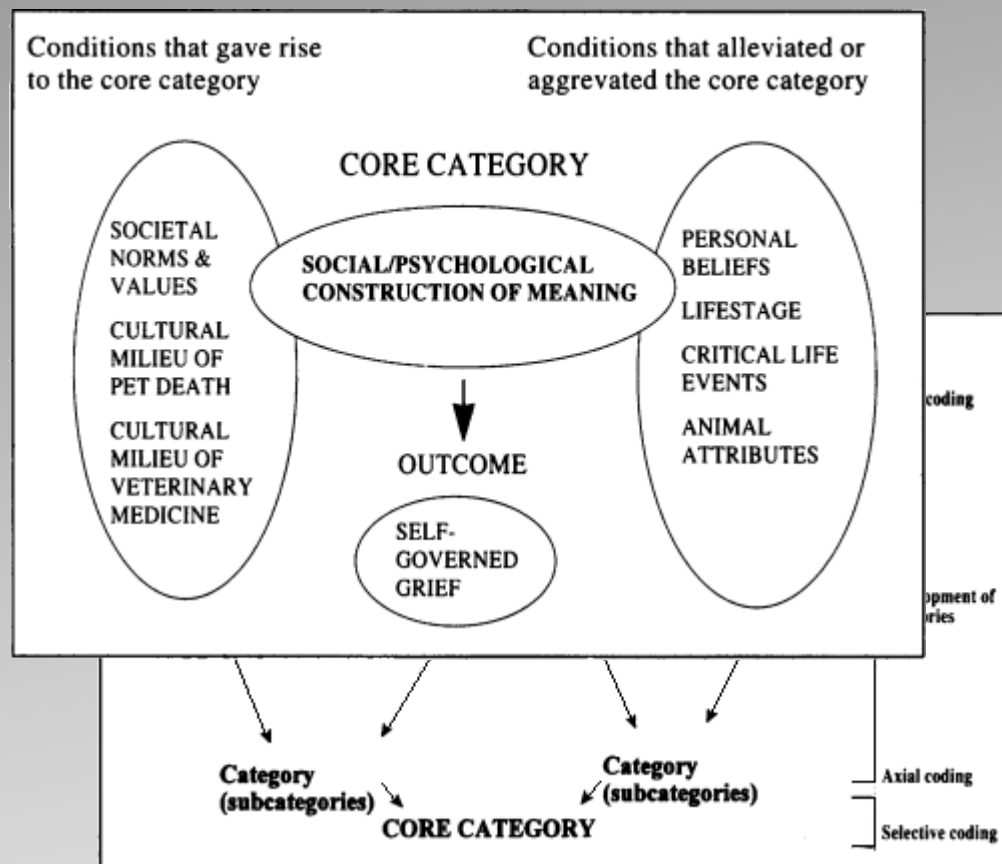
Department of Population Medicine, Ontario Veterinary College, University of Guelph, Guelph, Ontario N1G 2W1.

This project was financially supported by the Waltham Centre for Pet Nutrition, the Secord-Currey Fellowship, and the Ontario Veterinary College Pet Trust Fund.

Can Vet J Volume 40, January 1999

33

グラウンデッド・セオリー・アプローチ



Owner response to companion animal death: development of a theory and practical implications
(Adams CL et al, Can Vet J 40: 33-39, 1999)

番号	テ ク ス ト	〈1〉テキスト中の注目すべき語句	〈2〉テキスト中の語句の言い換え	〈3〉左を説明するようなテキスト外の内容	〈4〉テーマ・構成概念 (前後や全体の文脈を考慮し)	〈5〉疑問・課題
1	医学部に入学してはや1年がたち、ふたたび新学年のスタート時期がめぐってきた。この時期、医学部2年生だけは、大学が始まる1週間前に、まだひっそりとしずまりかえるキャンパスに呼び戻される。これはPhysical Diagnosis (身体診察学)の集中講義のためである。購入したてのまあたらしい医者七つ道具を抱え、三ヶ月の夏休みですっかりリフレッシュかつ日焼けした仲間が教室に揃ったハードルレースのようであった1年目。学年末試験を控えたころには寝不足で、皆ショボショボした目をしていたのがウソのようだ。「さあ、また1年がんばるぞ!」というやる気と期待とエネルギーで今日は皆キラキラしている。	医学部2年生だけ…呼び戻される、集中講義、やる気と期待とエネルギー	医学部2年生だけの学習課題・条件、学生の意欲、エネルギー	集中実習の必要と特別のカリキュラム、それに対する学生の情意的レディネス	学習条件と学習者の意欲の一致・ぶつかり	
2	これから1週間の集中講義で、血圧の計り方からはじまり、聴診器の使い方、前立腺のチェックの仕方、神経系システムのチェックの仕方、痴呆症のスクリーニングの仕方など、詳細かつ完全な身体診察のやり方を学ぶ。もちろん1週間ですべてをマスターできるわけではない。この1週間はこれからの1年間、毎週半日病棟で身体診察を実習するコースのイントロダクションなのである。	集中、講義、実習	高密度の集中した建て込んだ実習、手技	集中して行われる各科の競合的指導、教える側の競争的環境・条件	集中による競合	各科間で競争的な環境や雰囲気はあったのか?
3	午前中にそれぞれの「器官」の専門家がかわりがわる1時間程度の講義を行う。 午後は女子学生と男子学生に分かれて午前中に学んだことをお互いに復習しあった。 こうして最終日である金曜日には、さこちないながらも、そしてノートと首っぴきながらも、頭のとっぺんから爪先までの身体診察を行えるようになっていた。	専門家がかわりがわる 女子学生と男子学生に別れて…復習しあった。 金曜日には…頭のとっぺんから爪先までの身体診察が行えるようになっていた。	各科の連続集中講義 学生同士の身体診察 1週間での学習完了	連続集中講義の共通性と競合性の問題 トランスジェンダーへの非配慮 連続集中講義の効果	各科連続集中講義の共通性と競合性 身体診察実習におけるトランスジェンダーへの非配慮	各科連続集中で実施するのは共通点もあるからなのか? 現在では学生同士の身体診察は無くSPを使うはず、要確認。
ストーリーライン (現時点で言えること)	この教授は、自己の身体を意外性のある形で教材化し、自己の身体から発せられるリアルな聴覚情報を自己の身体に描いた視覚情報と重ね合わせて理解を促進する形で提示し、驚きを含む学習過程を実現した。それだけでなく、自己を患者のように学生に提示することで、診察者と非診察者(診る者と診られる者)という立場の対立を、教育者の立場において止揚して学生に示した。そのリアリティと献身性は、意欲とエネルギーを有した2年目の医学生に強い印象を残した。そこではまた実物教材とテクノロジーが適切に統合されていた。その結果、各科の競合する1週間の連続集中実習の中で、この講義は肯定的な強い印象とともに受講者に長く記憶された。					
理論記述	- 医学教育における自己の身体の利用は、学習者に強い印象を残す可能性がある。 - 医学教育における自己の身体を教材化によって、診察者と非診察者を止揚した立場の教育が可能となる。					
さらに追究すべき点・課題	この集中講義では、他の教師はどういう指導をしていたのか? この教授の教育歴は? モデルになるものはあったのか? ほかにどういったケースでこういった方法が使えるのか?					

4ステップコーディングによる質的データ分析手法SCATの提案
(大谷, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (教育科学)
54 (2) : 27-44, 2007)

確立した方法論に準拠するよりも
目的に合わせた方法を編み出す工夫
(ただし、細かな説明を要する)

解釈は正当か？

- 調査者がデータ収集・解釈に与える影響を事前に検討する
（パーソナルインベントリー）
- 評価は複数人で（トライアングレーション）
- 解釈が適切かどうか、対象者本人に確認する
（メンバーチェック）

まとめ

質的研究

(定性的研究)

- 仮説生成
 - 帰納的
 - 変数の発見
- 個別性の追究

量的研究

(定量的研究)

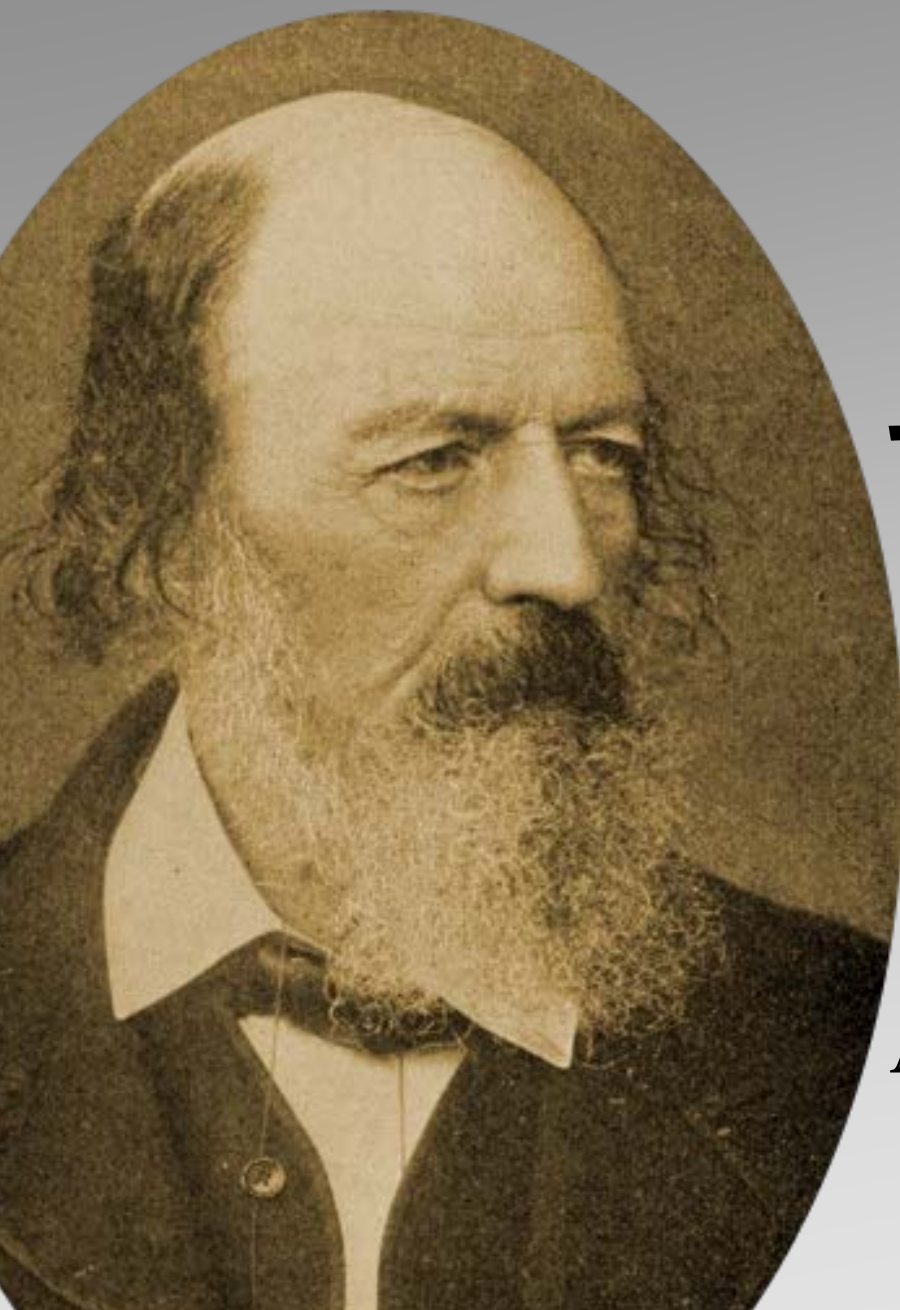
- 仮説検証
 - 演繹的
 - 変数の査定
- 一般化の追究

Why?
How?
What?

How many?



最後に



愛して失うのは、
愛したことがないより
マシだ

(In memorial)

Alfred Tennyson
1809-1892
(By Project Gutenberg)

目的なき研究は
自己満足

倫理的配慮も忘れずに

対象者は悲しみの真っ只中かもしれません。
思い出すだけでも苦痛かもしれません。

ところで——

よいデザインは思いつきましたか？



豊かな表現で描き出す
— 質的研究

ご清聴ありがとうございました

木村祐哉

kimunari@gmail.com
twitter.com/kimunari



※本スライドの画像の大部分はphotoXpressによる